

# 原告団

## 遺族・CO裁 判、災害責任 追及、特集号

第二百二十七号

## 原告団レポート

### 遺族 高橋キヨ子さん

### 原万田社宅

国道二〇八号線が福岡県大牟田市から熊本県荒尾市に入ると、すぐ右側に平屋の炭鉱社宅が広がる。ここが原万田社宅で、高橋キヨ子さん(大正八年七月八日生まれ)は五十八歳に居住している。



三池闘争の前ふれの中で、各地域分会の体制が強められたが、緑ヶ丘暁分会の仲間たちと(前列右から2人目が高橋さん。昭和34年)



昭和33年4月、二男正男さんの入学式

### 十一月九日

で下宿をしてみましたので、その知人の紹介での採用でした。すでに長男の藤吉さん(昭和十七年九月生まれ)と長女ののり子さん(昭和二十年三月生まれ)と二人の子供がいた。

「最初は倉掛荘という、今もバス通り沿いにあると思いますがそこに居ました。それから緑ヶ丘のついでに町社宅へ行き、暁町社宅ができてから四十八棟に移りました」

好天が続き、十一月初旬とは思えない暖かい日射しが部屋を奥まで入ってくる。簡単に、高橋好雄さん(明治四十四年三月五日生まれ)の経歴を語ってもらう。

「主人は大牟田市八本町生まれで、おじいさんは宮浦鉦のカマタキ(汽缶夫)だったそうです。男ばかり六人兄弟であった。戦争が終わると、残っていたのは製作所に勤める兄と二人だった。二人が戦死、あとの二人は昭和十三年の爆発赤痢で死んでいるんです」

### 会社をきびしく断罪、早く結審を

## あと二年で定年だった

### 裁判が終わっても闘いは終生続く

好雄さんは小学校を卒業すると手練のしょう油屋さんで働き、昭和十七年頃三井製錬所に入社したが、第二補充兵として佐世保の軍隊に召集され、鹿児島県鹿屋市に配属されて終戦となる。

### 戦後の入社

昭和二十二年万田社に入社した。第一番仕組だった。

「マル炭炭氣、にひかれて最後の入社でした。私の叔母が倉掛ちよとビケ隊は移動したが、一

三女よし子さん(昭和三十一年十月生まれ)と男三人、女三人の子室に思われていた。

「三池闘争中は地域や職場の役員はしていませんでしたが、三月二十八日三川鉦東門のビケで、コショウで目をやられ、手をケガして帰ってきました」

闘争がはげしくなるにつれ、お社の風呂に入らずにいました。今日は早く帰って風呂に入ると思い、帰る仕度していましたが、そ

「電話がかかり、いま三池商事から注文があり、オニギリを二百人分大急ぎ作ってくれというので、私は米を仕込んで残った二人の方に、こんぶかつげ物を少しずつ入れて作ってもらおうように頼んで門を出ました。門を出るたびに

通りの呉服屋さんに呼びとめられ「寝まきみたいな姿で、ハンド



自宅で裁判闘争勝利への決意を語るキヨ子さん。

「バスを降りると走って家まで帰りました。子供たちの話によると原万田の社宅は地震のように揺れたそうです。皆んな外に飛び出し空をながめると、真つ黒な大きな煙が三川鉦の方から上っていた。最初は何となく怖くもありませんでした」

「バスを降りると走って家まで帰りました。子供たちの話によると原万田の社宅は地震のように揺れたそうです。皆んな外に飛び出し空をながめると、真つ黒な大きな煙が三川鉦の方から上っていた。最初は何となく怖くもありませんでした」

「三池闘争中は地域や職場の役員はしていませんでしたが、三月二十八日三川鉦東門のビケで、コショウで目をやられ、手をケガして帰ってきました」

「電話がかかり、いま三池商事から注文があり、オニギリを二百人分大急ぎ作ってくれというので、私は米を仕込んで残った二人の方に、こんぶかつげ物を少しずつ入れて作ってもらおうように頼んで門を出ました。門を出るたびに

通りの呉服屋さんに呼びとめられ「寝まきみたいな姿で、ハンド

「三池闘争中は地域や職場の役員はしていませんでしたが、三月二十八日三川鉦東門のビケで、コショウで目をやられ、手をケガして帰ってきました」

「電話がかかり、いま三池商事から注文があり、オニギリを二百人分大急ぎ作ってくれというので、私は米を仕込んで残った二人の方に、こんぶかつげ物を少しずつ入れて作ってもらおうように頼んで門を出ました。門を出るたびに

通りの呉服屋さんに呼びとめられ「寝まきみたいな姿で、ハンド

「三池闘争中は地域や職場の役員はしていませんでしたが、三月二十八日三川鉦東門のビケで、コショウで目をやられ、手をケガして帰ってきました」

「電話がかかり、いま三池商事から注文があり、オニギリを二百人分大急ぎ作ってくれというので、私は米を仕込んで残った二人の方に、こんぶかつげ物を少しずつ入れて作ってもらおうように頼んで門を出ました。門を出るたびに

通りの呉服屋さんに呼びとめられ「寝まきみたいな姿で、ハンド

「三池闘争中は地域や職場の役員はしていませんでしたが、三月二十八日三川鉦東門のビケで、コショウで目をやられ、手をケガして帰ってきました」

「電話がかかり、いま三池商事から注文があり、オニギリを二百人分大急ぎ作ってくれというので、私は米を仕込んで残った二人の方に、こんぶかつげ物を少しずつ入れて作ってもらおうように頼んで門を出ました。門を出るたびに

通りの呉服屋さんに呼びとめられ「寝まきみたいな姿で、ハンド

「三池闘争中は地域や職場の役員はしていませんでしたが、三月二十八日三川鉦東門のビケで、コショウで目をやられ、手をケガして帰ってきました」

「電話がかかり、いま三池商事から注文があり、オニギリを二百人分大急ぎ作ってくれというので、私は米を仕込んで残った二人の方に、こんぶかつげ物を少しずつ入れて作ってもらおうように頼んで門を出ました。門を出るたびに

通りの呉服屋さんに呼びとめられ「寝まきみたいな姿で、ハンド

「三池闘争中は地域や職場の役員はしていませんでしたが、三月二十八日三川鉦東門のビケで、コショウで目をやられ、手をケガして帰ってきました」

### 苦難越えて

キヨさんは働きました。わずかばかりの退職金や遺族年金で食ってはいけなかった。幸い子供たちも大病をわずらうことなく成長し、一人ずつ就職していった。

「昭和四十八年でした。バスを降りて国道を横断している時、バイクにはねられまして、有明病院に半年ほど入院しました」

「三池闘争中は地域や職場の役員はしていませんでしたが、三月二十八日三川鉦東門のビケで、コショウで目をやられ、手をケガして帰ってきました」

「電話がかかり、いま三池商事から注文があり、オニギリを二百人分大急ぎ作ってくれというので、私は米を仕込んで残った二人の方に、こんぶかつげ物を少しずつ入れて作ってもらおうように頼んで門を出ました。門を出るたびに

通りの呉服屋さんに呼びとめられ「寝まきみたいな姿で、ハンド

「三池闘争中は地域や職場の役員はしていませんでしたが、三月二十八日三川鉦東門のビケで、コショウで目をやられ、手をケガして帰ってきました」

「電話がかかり、いま三池商事から注文があり、オニギリを二百人分大急ぎ作ってくれというので、私は米を仕込んで残った二人の方に、こんぶかつげ物を少しずつ入れて作ってもらおうように頼んで門を出ました。門を出るたびに

通りの呉服屋さんに呼びとめられ「寝まきみたいな姿で、ハンド

「三池闘争中は地域や職場の役員はしていませんでしたが、三月二十八日三川鉦東門のビケで、コショウで目をやられ、手をケガして帰ってきました」

「電話がかかり、いま三池商事から注文があり、オニギリを二百人分大急ぎ作ってくれというので、私は米を仕込んで残った二人の方に、こんぶかつげ物を少しずつ入れて作ってもらおうように頼んで門を出ました。門を出るたびに

通りの呉服屋さんに呼びとめられ「寝まきみたいな姿で、ハンド

「三池闘争中は地域や職場の役員はしていませんでしたが、三月二十八日三川鉦東門のビケで、コショウで目をやられ、手をケガして帰ってきました」

「電話がかかり、いま三池商事から注文があり、オニギリを二百人分大急ぎ作ってくれというので、私は米を仕込んで残った二人の方に、こんぶかつげ物を少しずつ入れて作ってもらおうように頼んで門を出ました。門を出るたびに

通りの呉服屋さんに呼びとめられ「寝まきみたいな姿で、ハンド

「三池闘争中は地域や職場の役員はしていませんでしたが、三月二十八日三川鉦東門のビケで、コショウで目をやられ、手をケガして帰ってきました」

「電話がかかり、いま三池商事から注文があり、オニギリを二百人分大急ぎ作ってくれというので、私は米を仕込んで残った二人の方に、こんぶかつげ物を少しずつ入れて作ってもらおうように頼んで門を出ました。門を出るたびに

通りの呉服屋さんに呼びとめられ「寝まきみたいな姿で、ハンド

「三池闘争中は地域や職場の役員はしていませんでしたが、三月二十八日三川鉦東門のビケで、コショウで目をやられ、手をケガして帰ってきました」

「電話がかかり、いま三池商事から注文があり、オニギリを二百人分大急ぎ作ってくれというので、私は米を仕込んで残った二人の方に、こんぶかつげ物を少しずつ入れて作ってもらおうように頼んで門を出ました。門を出るたびに

通りの呉服屋さんに呼びとめられ「寝まきみたいな姿で、ハンド



11・9 21周年抗議集会でピラを配るキヨ子さん(市民会館前で)

「裁判が終わって、もう一つと誓って頑張ります。高橋キヨ子さんにとって、好雄さんと子供たちと苦楽を共にしてきた、思い出の多い土地だけに離れたくないので、会社に対するたたかいが終生続くからだ。